

文化遺産を活かした地域活性化事業実施報告書

① 都道府県・市区町村名	静岡県静岡市	②補助事業の種類 (どちらかに「○」)	I	地域の文化遺産次世代継承事業
			II	世界文化遺産活性化事業
② 実施計画の名称	羽衣ルネッサンス事業 2 ・ 三保松原(構成資産)を後世に伝えていくための活性化事業			
③ 実施計画期間	平成 28 年 5 月～平成 29 年 3 月			
⑤過去の補助事業実績				
平成 2 3 年度文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業			千円	
平成 2 4 年度文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業			千円	
平成 2 5 年度文化遺産を活かした地域活性化事業			千円	
平成 2 6 年度文化遺産を活かした地域活性化事業			千円	
平成 2 7 年度文化遺産を活かした地域活性化事業			2, 715 千円	
⑥計画の実施状況 (概要)				
※平成 2 8 年度までに実施した計画の実施状況を記載してください。				
<p><平成 27 年度></p> <p>1. 人材育成事業</p> <p>①ヘリテージマネージャーの育成</p> <p>②三保松原を後世に伝えていくための環境整備の啓発・啓蒙事業</p> <p>2. 世界文化遺産普及啓発事業</p> <p>①世界文化遺産普及のためのシンポジウムの開催</p> <p>3. 世界文化遺産調査研究事業</p> <p>①三保松原の歴史的価値を調査する事業</p> <p><平成 28 年度></p> <p>1. 人材育成事業</p> <p>9 月から 2 月までの約半年間、公募した聴講者を対象に、三保松原学文化講座全 12 回を実施した。</p> <p>①ヘリテージマネージャーの育成</p> <p>三保松原学文化講座のうち 10 回を、清水駅前の勤労福祉センターにて、「信仰の対象と芸術の源泉」に関係する専門家を講師として招聘し、前年度と内容が重ならない講座を実施した。27 年度には実施しなかった、ヘリテージマネージャーについての詳しい説明、聴講者と講師の対話の場も設けた。</p> <p>②三保松原を後世に伝えていくための環境整備の啓発・啓蒙事業</p> <p>三保松原学文化講座のうち 2 回を、三保松原に隣接する東海大学海洋学部にて、「三保松原の保全活動」に関係する専門家を講師として招聘し、講演会を実施した。</p> <p>2. 世界文化遺産普及啓発事業</p> <p>①世界文化遺産普及のためのシンポジウムの開催</p> <p>静岡市清水文化会館小ホールにて、「芸術・美術」の視点から見た世界遺産三保松原をテーマに専門家を招へいし、シンポジウムを開催した。</p> <p>また、同時期に静岡市清水文化会館ギャラリーにて「三保松原ゆかりの絵画展」も開催した。</p> <p>3. 世界文化遺産調査研究事業</p> <p>調査・研究では、前年度の成果を踏まえつつ、内容が重ならない事柄を対象とした。新たな講師の参加、</p>				

三保松原をフィールドとする調査・研究チームの参加もあった。

⑦事業実施による効果等の検証・分析結果

※平成28年度までの計画の実施により得られた効果や実施以後の状況（人数、理解度、活用状況、人材育成などの指標に基づき、定量的・定性的な効果）を具体的に記載してください。

1. 人材育成事業

聴講者数達成率…90%（目標値：440、実績値：392）

文化講座を平成27年度と同じ形式で開催した。27年度から継続しての聴講者は65%と、内容が重ならず新鮮味があったことを反映している。聴講者（協議会メンバー、サポートメンバー、市職員除く）の延べ人数が458名から392名に減ってしまったのは、2年目ということで聴講者が慣れにより欠席しやすくなったこと、27年度は参加条件としてすべての講座に出席することを表記していたが、28年度はより多くの層に聴講してもらうため敢えて表記しなかったことが原因と考えられる。しかし、「信仰の対象と芸術の源泉」10回の会場の容量を考慮すると、毎回多くの聴講者が集まり充実した講座であったと言える。

① ヘリテージマネージャーの育成

人材育成達成率…80%（事業目的の理解者数 目標値：25、実績値：20）

「ヘリテージマネージャーを目指してほしい」ということについて、27年度は聴講者に対し強く訴えなかったが、28年度は文化講座第3回でヘリテージマネージャーへの意識についてアンケートを実施し、それを踏まえて協議会からの説明の機会を作り、最終回には聴講者と講師・協議会との対話を実施し、ヘリテージマネージャーになることに対する意識の向上を図った。対話において、アンケートからは見えてこなかった率直な発言を得たこと、三保松原に対する各々の想いを会場で共有できたことは、協議会にとっても聴講者にとっても後年度につながる大きな収穫だった。第3回時点のアンケートでは、ヘリテージマネージャーを目指すと回答した聴講者が2名であったのに対し、最終回では出席した聴講者全員（20名）が、ヘリテージマネージャーとして何らかの形で三保の価値を伝えてゆくことに同意した。

理解度

講座の内容について、27年度と比べて28年度の内容が重ならないように工夫したが、同じ事柄について別の講師、別の視点から学ぶこともあり、理解が深まったと考えられる。また、28年度はエレーヌ・ジュグラリスの生誕100年を記念した講演会や展示が他にもある中で、その夫マルセル・ジュグラリスについて講座で扱ったこと、また、三島由紀夫「豊饒の海」が清水市民文化会館で公演される前に講座で扱ったことは、聴講者が講座内容を理解するために効果的であった。

具体的な活用例

- ・シンポジウムと同時期に開催した美術展では、協議会メンバーだけでなく聴講者も案内役として活動した。
- ・三保でボランティアガイド活動をする聴講者は、講座で得た知識を講座に参加できないガイドと共有するとともに、三保第一小学校での歴史探究活動及び子どもガイド活動の指導に活かした。
- ・27年度からの聴講者の一人が、三保松原学講座をきっかけに三保松原の絵画作品制作に取り組み、松原の作品2点を含む個展をフェルケール博物館にて開催した。
- ・目立った活動はしていないと話す聴講者からも、同窓会で集まった友人に話したら彼らも知らないことばかりでうれしかった、家族や隣人に話して聞かせている、といった意見が多かった。

② 三保松原を後世に伝えていくための環境整備の啓発・啓蒙事業

人材育成達成率…80% (事業目的の理解者数 目標値：25、実績値：20)

松原保全活動で先進的な取り組みを行う NPO として著名な KANNE 藤田氏による講座は、三保で保全活動に携わる聴講者や協議会メンバーにとって、とても刺激的だったようである。三保松原の保全団体による、菌根菌の保護、間伐材の活用、松葉掻きで得た松葉の活用など、行動の具体化がみられた。最終回では出席した聴講者全員 (20 名) が、講座の受講により行動変化があったことを述べた。

理解度

保全団体の活動意欲はより高まったが、松原に関する基本的な部分の理解不足や誤解も多く見受けられた。特に、継続して講座に参加せず自分の関心のある分野だけ参加する聴講者にそういった傾向が見られるため、今後はその部分のフォローに力を入れる必要がある。また、行政としても松原保全の基礎を習得させるための啓発・啓蒙活動も強化する必要がある。

具体的な活用例

・日頃保全団体で活動する市民向けの松原保全研修に、これまで保全活動に参加したことのなかった聴講者が参加した。

2. 普及啓発事業

①世界文化遺産普及のためのシンポジウムの開催

来場者数達成率…60% (目標値：200、実績値：120)

27 年度の反省をふまえ、市民に親しみやすい内容として「芸術・美術」をテーマとし、チラシの配布だけでなく、静岡市 facebook アカウントおよび清水区 facebook アカウントでの広報も行ったが、若い層を集めることはできず、聴講者は 50 人と少なかった。シンポジウム開催日は、静岡市で年間を通じて最大の舞台・芸術イベント (大道芸ワールドカップ in 静岡) 期間中であり、地域活性化に関心のある若者、地元の高校生、大学生、芸術系専門学校生の多くがボランティアとして活動している最中だった、という点が原因の一つと考えられる。(平成 29 年度の事業計画でも、当初は会場の都合により同様の日程でのシンポジウムを企画していたが、聴講者を集めることが難しいと判断し、会場を区役所内に変更することで日程をずらした。)

同時開催した絵画展では、100 名を超える来場者があった。羽衣の天女や富士山という身近な存在について、その絵画を年代順に展示することで、新たな気付きを提供できた。

活用

聴講者は少なかったが、静岡新聞に掲載され多くの市民が概要を知ることができた。今後の活動の中で、シンポジウムの内容とシンポジウム講師による調査・研究成果を合わせて、わかりやすい形で広く発信し、活用していく必要がある。

3. 世界文化遺産調査研究事業

羽衣伝説の調査 2 件から、一般の人々にも身近な羽衣伝説にまつわる、非常に興味深くわかりやすい仮説が報告された。三保松原に親しみ深く学ぶきっかけとなる題材として、活用できるものである。

三保松原と富士山の絵画の調査からは、時代とともに変化する人々の生活や思想が報告された。こちらも富士山の長い歴史を感じるきっかけとなる題材として、活用できるものである。

三保でボランティアの協力により実施された堆積松葉の賦存量等の調査は、今後の松原の保全活用に有用なデータである。

富士山と最勝閣の美しい風景写真は三保の関連資料として有名だが、最勝閣の存在期間の短さゆえに

その建物の情報はほとんど知られていなかった。今回の調査により整理された情報は、今後の研究の糸口となる貴重なものである。

【得られた効果】

住民の三保松原の文化への理解と知性の向上、文化都市三保松原の形成

「三保松原の文化（歴史、芸術、科学、保全活動）に対する理解の向上、受講の前後での行動の変化」についてのアンケートでは、通年聴講者の8割以上が『知識の向上、ポジティブな行動変化があった』と回答した。人材育成の面からは大きな効果があったと評価できる。

環境整備への理解

実施計画書では、効果の測定方法として「保全活動への参加経験の無い受講者が、1回以上の保全活動に参加すること」としていた。講座への参加をきっかけに初めて保全活動に参加した三保在住の聴講者もいたが、市外から講座を訪れる高齢の受講者については、保全活動への参加をもって効果を測定することはできなかった。また、講座最終回の対話では、ヘリテージマネージャーとしての活動の方法は人それぞれなので、特定の分野で事業の効果を測定することはできない、という結論が導かれた。

聴講者自身が保全活動に参加できない場合でも、間接的に保全活動に貢献することはできると考えられる。市主催及び民間団体主催の保全活動参加者が27年度から28年度にかけて増加したことには、この事業で育成されたヘリテージマネージャーの活動も寄与しているのかもしれない。

その他

富士山と三保松原に関係する多くの専門家を講師として招聘したことは、松原保全団体、歴史研究会や行政にとって、三保松原に関する人材ネットワークづくりに役立つ場となった。

普及啓発活動（シンポジウム）については課題が残ったため、事業で得られた情報の発信を今後効果的に実施する必要がある。

講座やシンポジウムの概要については現在協議会のホームページで閲覧可能となっているが、事業全体の成果物も私費で印刷製本し、三保生涯学習交流館、清水中央図書館に配架する予定である。